

## 第12期 第9回 鳥取市校区審議会 議事録

1 日 時 平成27年2月13日（金）14時00分 ～ 17時10分

2 会 場 鳥取市役所 本庁舎 4階第3会議室

3 出席者 【委員】

渡部昭男委員（会長）、岩崎憲一委員（副会長）、渡辺勘治郎委員、片山敬子委員、吉澤春樹委員、米原隆生委員、上山弘子委員、神谷正恵委員、有本喜美男委員、横西経雄委員、牛尾柳一郎委員、山本源五郎委員、平尾司砂委員、谷口好宏委員、【教育委員会（事務局）】

神谷康弘次長、木村正人次長、石上直彦主幹兼指導主事、小谷昇一主幹、

4 会議次第

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議事録署名委員の選任 有本喜委員、横西委員

4 報告

(1) 第8回校区審議会審議概要について

(2) 校区審議に関連する活動報告について

(3) 教育を考える会の活動状況について

(4) 「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」について

(5) 幼小中一貫校推進委員会の設立について

(6) 小規模校転入制度（中学校）の導入について

(7) 「南中学校の今後のあり方検討会」議事概要について

5 議事

(1) 中間まとめについて

(2) その他

6 その他

7 閉 会

5 議事の概要

事務局 ただいまより、第9回鳥取市校区審議会を開会させていただきます。

先月、文部科学省より「公立小中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」が公表されました。まさに国も、小規模化が進む全国の学校について、どうあるべきかの検討を各自治体に促す方向性を示したところでございます。

その内容は、本審議会が議論していることと矛盾するものではなく、逆にこちらの方がより突っ込んだ話し合いをしているのかなと感じるぐらいです。

本日は、前回に引き続き「中間まとめ」についてご審議をいただき、公表に向けて進めていきたいと考えております。

また、緊急の課題となっております南中については、先月行われた検討会の報告を受けて、今後の方向性についてご意見をいただきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日の出欠ですが、有本（健）委員と倉持アドバイザーからご欠席の報告をいただいております。それでは、渡部会長にごあいさつをいただき、進行をお願いしたいと思います。

会 長 みなさん、こんにちは。今日は、まさに「トンネルを抜けると雪国」といった感じでした。前回にかなり突っ込んだ議論をいただきました。今日も、南中問題と「中間まとめ」について、忌憚のないご議論をお願いします。

議事録署名委員ですが、名簿の順番により 有本（喜）委員、横西委員にお願いしたいと思います。

それでは早速ですが、報告事項に入ります。事務局より一括して報告をお願いします。

事務局 [報告事項（１）～（４）の説明]

事務局 [報告事項（５）～（７）の説明]

委 員 [報告事項（７）の説明]

委 員 [報告事項（７）の説明]

会 長 スライドを準備しておられるので、説明をお願いします。

事務局 [報告事項（７）の説明]

会 長 ありがとうございます。それでは、報告事項（７）の南中問題は、議事の方に回します。報告事項（１）～（６）について、少し補足があればということで、明治について谷口委員さん何かありますか。

委 員 考える会の役員会を何回も重ねているところです。役員会は、小学校の校長先生と教頭先生、ＰＴＡの代表、公民館長、自治会長、里づくり協議会の会長、そして会長の私と８人で行っています。

次の月曜日にも開催する予定ですが、アンケートをどのようにとるかを話し合います。それは、明治地区は大半が明治小に通っていますが、一部には世紀小に通っている家庭もあるので、通っている学校を尋ねる項目を入れるかどうかなど、そういうことも含めて、いろいろ検討をしていこうと思っています。

それから、テレビ会議システムを使ったような授業を、明治小と小規模校と言われている小学校を結んで行うなど、今できることをやっけいこうと考えています。ですから、予算がどれくらい掛かるか調べて、教育長へ要望していこうということを話しています。今できることから進めていこうというのが考える会の現状です。

会 長 福部関係で、上山委員さん何かありますか。

委 員 先日、広島大学附属三原学校園に視察に行かせていただき、メンバー同士で「今まで一貫校を作る作ると言いながら、なかなか先が見えなかったけど、視察に行って何となくイメージができつつあるな。前を向いて歩けることが嬉しいな。わくわくするな。」という話をしたところでした。

２月８日の日曜日には、「まちづくり推進大会」というのが福部でありまして、そこで、前の湖南学園校長の木下先生に、湖南学園の話をお聞かせいただきました。地域の人も具体的なイメージが掴みづらいたところがありましたが、参加していただいた方には、大方のイメージを持っていたかたかなあということ、いい会を開いていただいたと思っています。

推進委員会は、各部会がそれぞれ２回目の部会を予定しており、段々と前に向かって進んでいるところです。啓発部会では、広報をしっかりと進めようということで、支所だよりにコーナーを設けてもらったりするなど、あらゆる手段を使って地域に知らせていこうということになりました。開校してからも、外部に向けても広報をしっかりとしていこうと改めて決め

たところでは。

すなっこ園の方も、概ね前向きな考え方をさせていただいているようです。ただ、早朝保育はどうなるかとか、目の前に迫っていることについて頭を悩ませておられるようです。それについても、1つずつ解決していくしかないのかなと思っています。

会 長 三原学校園についてももう少しお伺いしたいのですが、幼稚園は何歳児からですか。

委 員 3歳児から5歳児までです。そこは、隣接型で一体型ではありませんので、建物は別々でした。幼稚園児が2年生の教室で授業を見せてもらう場面がありましたが、本当にきちんと椅子に座って背筋を伸ばして話を聞いているところですか、お兄さんやお姉さんの背中を見ながら、しっかり大きくなっているなということを確認させていただきました。

それから、「自ら伸びよ」というテーマで学校が教育を進めておられました。本当にそうだな、私たちはサポートするしかないなとも思わせていただきましたが、それぞれの年齢でしっかり力がついているなど感じました。

会 長 隣接タイプですが、カリキュラムとか実践はかなり連携してやっておられましたか。

委 員 はい、しておられました。

会 長 その他、報告事項（1）から（6）について何かございますか。

では、3時10分再開ということでそれまで休憩を取らせていただきます。南中の問題も協議事項に入れて「中間まとめ」と一緒に進めたいと思います。

(休憩)

会 長 それでは、会議を再開いたします。残りの時間は「中間まとめ」と南中の問題で協議の時間を費やしたいと思います。まず、事務局から「中間まとめ」の案を説明していただいた上で、議論をしたいと思います。

時間が掛かって伸びるようでしたら、3月に次の会を設けて、最終案を検討いただき、年度をまたいでということもあります。ただし、早い方がいいということであれば、年度内に公表することも可能だということを進めていきたいと思います。

事務局 [議事（1）中間まとめの説明]

会 長 ありがとうございます。それでは、意見を出していただきたいと思います。

委 員 13ページに「明治小校区」と書いてありますが、「明治地区」に変えていただきたいと思います。そうしないと誤解が出ますので、よろしくお願いします。

会 長 前回出していただいた議論が反映されておりますでしょうか。特に、各自ご発言されたところをご確認ください。

私も前回の議事録を確認してみましたが、11ページの一覧表の⑦の選択肢の一例として、議論を踏まえて統廃合」という意見を入れましたので、小規模に関わる、②③⑥にも同じように入れた方がよろしいのではないかと思います。それと、全国との対比表は、今日の資料の6ページにある表をつけた方が分かりやすいと思います。

委 員 14ページ4行目の江山中校区エリアについてです。「学校統合並びに小中一貫校の設置を考えた時、神戸地区から小学校が消えてしまうことで、地域振興の機運が縮小してしまう懸念もあることから、審議会としては初等ブロック分離型小中一貫校の検討を行っている」

とあります。

これは、こういう方法もあるという認識ですし、必ずしも審議会がそうだと言っているわけではないと思っていますので、「検討を」ではなく「検討も」として、これが全てではないという方向にさせていただく方がいいのではないかと思います。

会 長      こんな感じにしたらどうでしょうか。審議会としてはというよりも、「初等ブロック分離型小中一貫校の選択肢も挙がっている」としておきましょう。

他には、どうでしょうか。イメージとしては、例えば2月末ぐらいまでに目を通して、ご指摘いただくという形はいかがでしょうか。次回が3月のどのあたりに設定できるかにもよりますが、それほどたくさん意見が来なくて、微調整で済むようでしたら、改めて修正したものをみなさんに郵送させていただいて、年度内に中間まとめを公表する。ただし多いようですと、もう1回開いた上で、急げばそれでも年度内に公表するという形はできるかなと思います。

ただ前回の議論で出されたのは、公表するのはいいけど、どこに話を持って行って、どのように進めるかということでした。その辺は、次回にしっかりと検討してみたいと思います。

したがって、今日の段階ではお持ち帰りいただいて、内容について2月末までにしっかりとご意見をいただく。そのご意見の量によって微修正なのか、もう一度会を開いてしっかり議論するのかを検討したいと思います。

委 員      この「中間まとめ」の案は、例えば、教育を考える会に出してもいいものですか。

会 長      基本的には、審議会に出されているいろいろな資料は公開ですので、公開していただくのは自由です。ただ、地元からの意見が反映されてまとめが変わるということにはなりませんので。

委 員      この段階で出してもいいのですか。

会 長      配布されている資料については、それぞれのところでしっかり議論していただく形はよろしいかと思います。

事務局      今日の審議会の資料としてアップされるものです。

会 長      審議会の資料自体は基本的に公開ですので、今日の日付で出されたものとしては公開してもいいです。

事務局      例えば、この場で伏せておきましょうと決めれば、非公開でもいいですが。

委 員      他の資料は別として、中間まとめは修正を加えてからがいいと思います。

会 長      これは、みなさんにお諮りしましょう。今までクローズドにしたという例は、あまりありません。基本的には何月何日に配布された資料ですよということでオープンになっています。ただそれが議論の過程で変わっていくことは当然ありますから。

委員から動議が出されました。クローズがよろしいということであればクローズドにしましょう。どうでしょう、見せた方がいいのか見せない方がいいのか。

委 員      全文読んでいるわけではありませんが、2ページの「区分（位置づけ）」の下の方に「後期後半」の「期」が日記の「記」になっています。こういうのは、しっかり校正しなければいけません。誤字というのは一番品がよくないです。

会 長 　　いかがでしょうか。持ち帰って少し議論をしたいという意見もありますし、最終案がまとまるまではクローズドの方がいいのではないかという意見もあります。前回に出されたものは、見えてしまっているのですよね。

事務局 　　12ページの表までは公開していますが、13ページ以降についてはまだです。

会 長 　　こうでしょうか。インターネット上の公表は控えますが、委員さんが持ち帰って協議したい、相談したいということまでは制約をかけない。ただし、最終的なネット公開は、誤解がないように最終案までしないということにしましょう。

今日は、南中の問題について議論させていただきたいと思います。こちらの方も急いで、審議会の方向性を出したいと思います。では、口火を切っていただく形で、有本（喜）委員さんをお願いします。審議会としては、どういう形で進めていったらよろしいでしょうか。

委 員 　　この南中の問題のポイントは、教室が足りないということです。これは、分かっていたことではないか、教育委員会がしっかりやってくればよかったではないかという意見があります。

南中の校区は広く、教育を考える会の立ち上げが困難であります。しかも、生徒数増加の推計から緊急性があるために、各地域に持ち帰って考える会を立ち上げて、意見が上がるのを待つというので間に合うのかという意見もあります。だから、他のケースと基本的なスタイルは違いますが、当審議会で突っ込んだ議論をして結論を導き出すことはできないのか、という気持ちで分科会提案をしたわけです。

3つの提案を具体的にしたら、跳ね返ってくるものがありました。ですから、それを踏まえて、当審議会がどんどん議論を進めるのがいいのかどうか。そのあたりを交通整理してから話を進めるべきではないかと思います。

どこに持って行って、地域の声を吸い上げるのか。意思統一した意見をまとめるのか。私にはいい提案がないです。

会 長 　　あと3年と区切りがはっきりしています。今日の報告事項で出していただいた検討会のご意見でも、やはり地域の意見を待ってからという形ではないということで、今日のみなさんのご議論の結果にもよりますが、当審議会がリーダーシップをとってある一定の方向性を出すということになると思われれます。そのあたりも議論していただければと思います。

そのうち、分離新設は、仮にいろいろなものが整ってからも4年は掛かるということです。整わなければそれがずるずると後ろに行ってしまう。これは、理想ではありますが、リスクが伴いハードルも高そうな感じがいたします。

そうしますと、どこに増改築するかというところで、グランドなのか現地かということがあります。今の中学校の近辺に空地はないのかということも少し検討してみてもどうかと思います。

道路を挟んでいる武道館は、建築して年数がまだたっていないので、壊してしまうと補助金返還に関わるということです。プールの横に、駐車場のようなスペースが若干あるということです。他にも、周辺地域には若干あるのではないかと思います。

特別教室棟のところを増改築するという案に少しいろいろプラスしながら、一番進みやすいものを検討して、どういうふうな結論になるか分かりませんが、審議会のリーダーシップで、できれば平成27年度の早い段階で答申が出せればと思います。

委 員 　　南中のあり方についての意見交換会がせっかく開かれたわけですから、地元の意見を集約していく段階の一助にさせていただきたいです。まずもって、教育委員会の方で積極的な動きをされないといけないと思います。行政の立ち遅れを非常に感じます。「生徒が増えた増えた。じゃどうしようか。」と、今は万歳している現状と聞きます。明らかにこれは教育行政の怠慢と感じられます。

それと、意見交換会の議長に有本委員さんがなられたということですが、これはちょっと場違いではないでしょうか。議長というのは集まった人の中から選任していくべきではないでしょうか。有本委員は南中のOBであり、オブザーバー的な立場で参加されるものと思っておりました。よもや議長までされるとは思ってもいませんでした。意見交換会のこれからについても、教育委員会には考えていただかなければいけないと思います。

会 長 当審議会以外でも、教育委員の会議等で南中問題について議論されているという状況はありますか。

事務局 ありません。

会 長 では、教育委員会の会議の方でも、南中のことを出させていただきたいと思います。

事務局 教育委員会でこの問題を出したことがあるのかということでしたら、それはあります。「南中はこういう問題に直面しており、校区審議会での議論はこういう状況で、こういう日程で出かけて、学校やPTA関係者の意見を聞く予定です」という報告をしております。教育委員さんの方で議論をしている状況はございません。

会 長 議長に有本委員がなられた経緯というようなものは、どうだったのですか。

委 員 進行係がいるということで、互選で「やってください」というムードで選ばれました。「議長」という呼び名も、これはどうかと思いましたが、「進行係」ということで、会議の進行係が誰かいるわけですから。そういうことでしたよ。ただ、議長選任という諮り方をして選ばれたということで、いろいろな違和感はありました。

委 員 「地域の合意形成は、どこに話をしたらいいか」については、今までの例を私は知っています。例えば、北中が中ノ郷中と分離したとき、地域にどういう合意形成を図っていったのか。それから、谷口委員もご存知ですが、明治中が大東中と統廃合になった時に、地元の合意形成をどうしたのか。高草中学校は範囲が広いわけですね。旧の6校区ありますから。これは、しっかりしてあるわけです。

だから、南中は広いので、ただPTAだけで話を聞くのでは、恐らく西部地区の二の舞になって、とんでもないことになる可能性が高いと思います。全部の組織に浸透させるというのは難しいわけですから、最初は、倉田地区の自治会長、美保南地区の自治会長、そして日進、美保ですね。それから、南中のPTA、あるいは学校関係者のトップが集まって話をしていくべきです。これは、入り口を間違えたらゴールはないわけですから、時間が掛かってもするべきです。

もう既に、今年入学する生徒を加えると、700人近くになって、県下で第一の中学校になります。米子に大きな中学校がありますが、それ以上になります。そして、5年後に800人を超え、またさらに5年後には900人を越えます。

今日の資料に、どなたが言ったのか分かりませんが、「学年が11クラス以上になり、900人を超える。もう想像もつかない。」とあります。南中は、1万7000平方メートルしかないと思います。校舎が建っているところは、5000平方メートルだと思っています。こういう狭いところに、緊急を要するからと言って、既にある管理棟を壊して改築するというのが、本当に将来にとっていいのかどうか。

それから、改築をして現地でしのぐにしても、プレハブを建てて、2年なり3年なり対応しなければいけないことです。これは、新設中学を作っても、いずれにしても仮設で対応しないといけないのははっきりと分かっています。ですから、その辺をしっかりと練って答申をしなければいけません。

平成24年、25年の西部地区の中学校3校や小学校4校の暴挙ともいえる統廃合案は、十分に審議しなかったために、ああいう結果になったと聞いています。ですから、南中のことは本当に急がれるのですが、審議会ではしっかり将来のことを、極端なことを言ったら、30年、40年、50年先のことを考えて審議して答申を出さないといけなと思います。

会 長 順にご意見をお聞きしたいと思います。地域との連携を取りつつも、いろいろな方策があると思います。今、3つ案が挙がっていますが、今日の報告を受けて、どんな印象でしょうか。

委 員 改築で増築するにしても、平成38年度には900人になることが推計されていることが気に掛かります。例えば、増築したにしても、またその時点で同じことが起こってくる。グラウンドへのしわ寄せとかいろんなことに影響が出てくるということも感じました。ただ3年後には教室が足りなくなると考えると、じゃそれはどうなるのかということで、なかなか迷うところであります。

委 員 増改築のこの案については、平成34年度の生徒が900人位になることに対応していますか。

事務局 対応しております。マックスの状態を前提に考えていますが、ただ土地が広くならないとするならば、窮屈だという状況は解消されません。例えば、理科室や技術室等の不足については、全て織り込み済みで設計していく考えです。

委 員 ということのようなので、本当に待たないだと思えます。今の時点で議論することが、遅きに失しているという気もしますが、そうはいっても現実がこうである限り、これから入ってくる子どもたちのことを考えれば、早急に何かの形で対応しなければいけません。ですから、現地での増改築もあり得るかなと思います。例えばグラウンドに使えるような土地が何かのところで出てくれば、それはそこで考えればいいのかという気がしています。

委 員 南中の生徒数増加の問題と、美保小も必然的に大規模化しているので教室が足りないし、美保南小もたくさん空き地があることを考えると、予想よりもかなり増えるという可能性もあります。仮に増改築しても実は読みが甘くて千人を超えてしまいましたということになって、じゃあどうしようとなった時、日進とか倉田が校区を変えないといけなということもあり得ます。時間的なことを考えると選択肢は少ないのですが、将来的なことを考えるとしっかりと議論をしないといけなと思います。

西部地区の時にも、議論がわつとなった時にはみんなが一生懸命でしたけど、中学校舎の改築が決まった時点で、小学校も意識が薄れてしまったということがありました。それでは困るので、やはり大規模校としての問題も小学校単位でもしっかりと関係していただくことが必要だということを、今回の「中間まとめ」でも織り込んでいく必要があると思います。そうしないと、またドタバタになってしまうのではないかと思います。

会 長 今回の案は、これからさらに宅地開発が進んだ場合はまだ織り込めてないのですか。

事務局 あくまで、今の住民基本台帳からのデータです。もう少し説明しますと、全ての子どもが入るという前提です。全てという意味は、実は全てが入るというわけではなく、附属や青翔開智への入学、校区外就学もあります。だいたい1割位の子どもの数が減ってはいます。

会 長 この数字は、抜けることは想定されていないものですね。

事務局 はい。あくまで、全員が来たらという数字です。希望しているのに入れないというのはいけませんから、当然今の子ども数から推定しているということです。その後、どうなるのかという正直分かりません。

全体的な国のいろいろな統計情報その他で、人口減少と言われている中で、ただこの南中校区は例外的に増えるかも知れないじゃないかと言われるれば、そうかも知れないという難しいところです。

会長 湖東中が、いつか千人を超えた記憶がありますが、どの辺まで行きましたかね。

委員 千人ちょっとまでいきました。

委員 グランドにプレハブ校舎を建てていましたよね。

会長 過去のそういう例は、もう少し研究してもらった方がいいかと思います。

委員 湖東中が千人を超えた頃に、南中ももう少し多かったと思います。湖東中は1学年10クラス位ありました。学年だけで、350～60人いて、指導をしていても、自分が教えているクラスしか子どもが分からないこともありました。

南中がこういうふうになくなったという背景の中に、宅地じゃなかったところが急に宅地になって、読めていなかったということも出ていました。それから、今の段階で小学校の方も空き教室がないということで、これからまた増えると、どうやって確保していくのかなということも聞いております。

南中の場合、マックスで入るという環境を整えるという前提で話が進んでいるようですが、やはり、まずは学級をベースにして、そこを入れていくということが第一義だと思います。それに付随して、理科室のこともありましたけれども、以前の湖東中も第3理科室までありました。音楽室も当然2つはないと持たないですしといった感じで、コンピュータ室も2つに増やしました。

そういうふうには、付随したものを、どれだけ確保して、子ども達の教育環境が維持できるかが、私は一番気になります。教室確保がまず大きな問題ですが、それ以外でも、特別教室や子ども達が活動するグラウンドなど、そういう施設をどのように確保していくのかということも大切です。

そして、校区の小学校との連携の中で、小学校もそういう状況にあるなら、どのように見通しを持っていくかという、先を見据えた改善策を持ちながら進めていかないといけないのかなと思います。

委員 2つの面から感じることは、南中の場合は住宅地やマンションがたくさんできて人口が増えた。その反面、山間部はどんどん減っています。今の人口推計では、30年後には鳥取は3割位減っていくということがあります。現に山間部の方の村は小学校の方に6年間で2人しかいないというところがあります。私のところには8つの集落があるのですが、たまたま1つの集落は若い人がいて、子どもが20人ぐらいいるけど、後の7つの集落で20人しかいないということです。ということは、平均で2人位しかいないということです。

6年間で2人しかいないのだったら、60歳までで村には20人になるじゃないかという話をしました。それが分かっているのに、みなさんは子どもを増やそうとか、若い人を地元を増やそうということを考えずに、ただ今のことだけを守っていたのではいけないと言うのです。余談ですが、というように、山間部はどんどん減っていきますよね。でも、市街地の方にはどんどん増えてくるからどうしようもない。

だから、南中の場合は、今、今は教室が足りないから増築ということになるでしょう。時間をかければ、例えば東中、西中に分けることはできないか、または南中校区を分けることはできないかということに繋がるでしょうけど、こちらはどちらにしても年数が掛かる問題



です。

例えば、桜ヶ丘中が400人ぐらいから700人になった間はどうかというと、プレハブでずっと対応しました。学年によってはプレハブばかりで気の毒な学年があったが、最終的には、きちんとした教室になりました。しかし、今度は逆に減ってきました。当初は、若葉台小に450人いたのが、もう間もなく200人台に落ちてくるということです。「増えることはないですか」と尋ねたら「もう若葉台には若い人がいない、みんな出てしまった」ということで、たぶんこういう現象が続いていくのではないかと思います。

今は、実際に生まれている0歳児からの子どもの数は分かるけれども、それより先のことは掴めません。でも、これからは、この地域がどうなるのかということをつかんでいかないとはいけません。例えば、どの校区でも学校を残したいという気持ちがありますが、今の数がどこまで続くのかが分かりません。

1990年ごろに建った施設が、更新の時期を迎えて、改築をどうするかという問題が必ず起こってくるので、校区審議会でも、全部のことと併せて考えないとはいけなくて、自治会では話しています。どちらにしても、今必要なのは、長いスパンで、20年、30年先を考えてあり方を考えていくことが、これからは必要だと思いました。

会 長 当面の策と長期的なものと同様並行で検討していくべきだとお聞きしました。では、副会長さん。宅地開発のことも含めてお願いします。

副会長 宅地開発の件ですが、美保南と城北と美保は、まさに人口が一番増えているところですよ。造成地は、ここしかないと言われてます。だいたい造成地に家を建てられるのは、30代が多いと思います。30～35才前後が多いと思います。その時に、旧市街地に空き家があっても、そこにはなかなか入られません。家を建てられる30代半ばの人は、自分たちと同じ年代の人を求めますから、造成地に家を建てられます。

そこで、事務局には、この地区で今までの10年間に人口がどれぐらい伸びてきたかということ調べていただきたいと思います。ですから、今ある統計上の資料だけで判断するのではなくて、今までの経過から見てこれからどうなるのかを考えながら推計を出すのがよいと思います。都市計画課などと話をしてみられたらいいと思いますが、たぶんある程度は造成地として使える土地がどれ位あるかをつかんでおられると思いますので。そういう見込みをもった統計でないと、今の統計の取り方では不十分だと思います。

それと、今日の資料の中で、適正規模の大規模校ですが、最大31学級以上となると、私は、南中はこれ以上いく可能性は多分にあると思います。審議会で協議するのは過小規模もあるし、過大規模もあります。適正規模の学校を作っていくとできないという議論をやっているときに、そういう可能性があることをしてもいいのかという疑問があります。

委 員 「南中の今後のあり方検討会」という名称に非常に違和感を持っています。内容は「意見交換会」です。ですから、今後当審議会が認めて、検討会を数十回に渡ってやっていくという方向性になれば、検討会の名称を使ってもいいですけど、先の会はまさに意見交換会でした。ですから、実際は当審議会から出た分科会でも専門部会でもなかったわけです。それは理解していただきたいと思います。

それから、当日は「会の司会進行をどなたにお願いいたしますか」というように事務局からお諮りをして、司会選出ということでしたが、途中から議長選出という言葉を使っていることも事実で、そういう議事録にもなっています。ちょっと苦しい面はありますが、実態はそうだったということをお聞きしたいです。

委 員 南中の意見交換会で出た意見をみてみますと、プレハブでしのぐのと同時に、近隣の用地で買収が可能とあれば、買っておかれた方がよいと思います。既存の校舎が老朽化して云々というときに、敷地が有効に使えますし、現状のグラウンドや体育館が手狭だということもありますので。それから、特別支援学級の生徒も増えるの見込まなければい

けないと思います。

それと、この場では不釣合いな意見かもしれませんが、大規模校になればなるほど、現場の先生方の目が届かなくなって、生徒に対する指導がうまくいかないですね。だから、各地の中学校が一時荒れましたね。ちょうど大規模のその時期と一致しています。あの中学校が荒れた、この中学校が荒れたと、噂ではよく耳にしました。よくよくチェックしますと、ものすごく生徒が増えて、大規模になった時点で非行が起こるなど校内が荒れていますね。ですから、大規模校では、現場で指導していく先生方にそれなりの対処を考えていただく必要があると思います。

私は、人口集積の度合いから見て、南中を分離して、南部の叶あたりに新築した方がいいと思います。そして、4校で南中に進学していますけど、2校、2校で美保南と倉田とを新たな中学校に通わせるとした方が、住民感情も地理的地域的にはすんなり納得いただけるのではないかと思います。そうすると、今の南中は日進と美保小が通学することになり、適正規模になると、個人的にはそう考えます。

会 長 建てられるエリアは、あまり南には下がれないという認識でよろしいですか。

事務局 都市計画法上の市街化区域と市街化調整区域との線引きが、叶のあの辺りにあって、理論上では、拡大するのは可能のようです。市街化調整区域に建てられるかどうかということ…。

副会長 原則的には、市街化調整区域に建てるのは無理ですね。ただし、都市計画審査会なりにかけて、用途変更していけば、できると思います。そういう流れになると思います。

事務局 絶対にだめかどうかと言われると、私どもでは、あまりはっきりとは言えないのですが、不可能でもない方法もあると思います。ただし、用地の相手方があり、交渉があり、さらに中学校区を分けることについての全体のコンセンサスが、どの時点で得られるかどうかということもあります。

会 長 校区割をもし提案した場合に、住民の意識もそうだし、県との協議も整わないといけなし、買収するとなると相手方もあるということです。今は、平成28年度には整うようになっているけど、ずっとずれ込んでいく可能性があるということですね。ただそうはいつでも、そういう議論は始めてみなければわからないということもあるということですね。

事務局 たぶんなかなか同意が得られないという前提で話していますけれども、あるいは、それはいいことだと動くかも知れません。

委 員 南中学校の問題は、喫緊の課題ではありますが、将来的な子どもたちの教育環境のことを考えた時に、あまりことを急ぎ過ぎて、一つだけで決めてしまうという考え方ではなしに、その分離新設を始めから除外するのではなく、同時並行で進めていくというのが一番いいのではないかと思います。

現場の教職員の考え方が統一されているのかもよく分からないところがありますが、一部の先生方の話は報告で聞きましたが、地域がどうなのかということも含めて、もっと議論をしていく必要があると思いました。

委 員 鳥取市の平成18年度、また23年度の基本方針は、18学級で約600人。これをはるかに超える巨大校を作っていくことが、子ども達の教育上本当にいいのかどうか。教頭先生や校長先生も言うておられますが、グラウンドも狭いし、部活の時間も笛を吹いて区切ってやっておられる。体力が非常に低下している。学習面でも、生徒指導面でも課題がある。適正規模という基本方針から考えても、巨大校は作ってはならないと思います。

それから、この「校区を分割したら嫌だ」と、検討会の資料に2、3か所出てきます。こ

ういう抵抗は大きいでしょうが、これだけ巨大化するのであれば、日進と美保で南中とすれば、私の計算では500人とちょっとで済みます。もともと美保運動公園のところにあった南中を、わざわざ川を渡って、今のところに持ってきているのです。これは、美保南とか倉田地区の人に言わせれば、とても不満で、今でも不満なのです。あんなところに持って行ったのですから。

ですから、これからまだ増えるであろうと予測されている美保南と倉田で中学校を作るとすれば、恐らく厳しい反発は出ないのではないかと予測します。

それから、今の南中の現地で、隣接地を買い求めるという話がありましたが、そういうことは近隣の住民の方、事業者の方から言わせれば、これは行政のわがままです。なぜそういうことを言うかと言いますと、前々の市長の時から、市庁舎を改築したい。これは出ていたわけですが、でも用地がない。東側の住宅、商店を、市役所のためと言って立ち退いてもらって、そうして今駐車場にしている。まだ足りないからと言って、向こうの住宅をと。ですから、公共のものを建てるために、近隣の住民たちに立ち退けよと圧力をかけるというような政策をするのは間違っていると思います。

市庁舎問題で、現地での耐震、増改築、半地下駐車場の3点セットの案で、執行部案に厳しく反対して運動した人たちは、ついに兜を脱いで執行部案の新築移転案に賛成しました。そういうことが直近にあった時ですから、南中のこの狭いところをつつきまわして、お金をたくさん使って、将来を考えた場合にはまだ膨れるというふうになったら、どうやって存続するかということになります。

ですから、もう一つ学校を建てるのがよいと思います。学校の人数は、事務局が出している推定数から見ますと、美保南と倉田を合わせたものは概算で373人の中学校が新設できる。そして、南中は500人ちょっとになり、適正規模ではないかなと思います。

委員 「中間まとめ」の14ページには、「一時しのぎのプレハブ校舎等で対応することは現実的ではない」、「校区を割ることへの地域との協議や用地取得の必要がないため、生徒を収容できなくなるという問題は解決する」、「新設校の設置となれば、いずれにしても生徒が学校の収容規模を超過することは確実であり、議論を急がなければならない」とあります。

この文面からは増改築の方が望ましいと読めます。ということは、とりあえずはプレハブでしのぎながら、小学校や中学校のPTAの方ばかりじゃなくて、どうしても地域感情というものがありますので、各自治会で地元の意見を聞いて吸い上げて、意見交換会をするというような形がいいのじゃないでしょうか。中間まとめで3月とか2月に出すという段階では少し早急すぎる文面に見えます。ですから、再度検討していただきたいと思います。

会長 「中間まとめ」にも少し関わるので、そちらの方もよく見て調整しておく必要があるかと思えます。

委員 私は、もともと鳥取の者ではないので、改めてこうやってお話を聞いて、学校というのがいろいろな形をしていて、今こういう状態にあるのだというのを改めて感じています。

今、自分の子どもが中学校に通っていますが、そこそこ大きな学校です。大きな学校だと、自分が動かなくても誰かがやってくれる、という気持ちがどこかにあるように思います。だから、もっと頑張ったらもっと伸びるのに、何か「そんなもんでいいかな」というのがあると感じます。もうちょっと人数が少なくて自分がやらなければというのがあれば、もっと伸びると思います。だから、限度を超えた大きい学校には抵抗があります。でも逆に、数年の間に子どもさんが通える学校を準備しないといけないという状況を考えると、それはそれで必要だと思います。

これからも増えるかも知れないことを考えると、やっぱり分けることも考えないといけないと思います。増築したからいいというのではなく、もっともっと長い目で見ていかないといけないとも思います。玄関に入るのもすごく混雑したり、この教室に入ったらいけないと言われたり、慣れてしまったらそんなこともないのかも知れませんが、子ども達はいろいろ

るなストレスを抱えています。だから、適正な規模というものがあると思います。

委員

いろいろな話を聞かせていただきました。現在、校区審議会の委員として出させていただいていますが、私もひとりの親ですので、どうしても子どものことを考えながら発言してしまうところがあります。確かに理想というか、子どものことを考えたり、長い目で考えたりすると、やはり適正であるかと言えば、それは適正ではないと思います。そうなる間違いなく分離新設という形がいいのは分かります。

事務局を否定するわけではないのですが、あと3年後に教室が足りなくなるというのを控えていることを考えれば遅いのです。何しているのだと保護者からも言われています。しかし、誰が悪いというわけではなく、今となっては、考えなくてはならないということもあります。ですから、PTA会長としては、ベストというものがなかなかない中で、子ども達にとってよりベターなものをどうしても考えざるを得ないかなと思います。そうなれば、今のPTA会長という立場としては、増改築という方向で考えた方がいいのかなと個人的には思います。

ただし、そのやり方については、多々あると思います。増改築にしても理想と現実があるかも知れません。先ほど、隣接地域を買うのは良くないという意見がありました。確かに、ただ買うのはいけません。ビジョンがないといけません。南中が耐震工事でグラウンドが使えない時には、美保運動公園まで行っていたのです。それはそれで、生徒たちは不便な思いをしたのですが、生徒の中には、「遠足みたいで楽しかった。」という意見が実はあります。プレハブひとつとっても、確かに「不便だ。」という人も多々いましたが、中には「冷暖房完備で良かった。」という意見もありました。そうかと言って、もちろんそれがいいというわけではありません。今でも、部活動で南安長のテニスコートに行ったりとか、いろいろ工夫してやっているわけです。増改築でも、何か工夫すればいいやり方というのがあるわけです。

ただし、それはここでは議論できないわけです。まさに、現場の先生方や保護者の意見を聞いていただかないといけないと思います。とはいえ、保護者もいい加減なもので、「3年後には子どもが卒業するから。」という人もいます。「待ちなさい。」と言っていますが、今の保護者でしっかり考えなければいけないと思います。

経験している先生方にもいい知恵がないか聞いて、ベストとは言わなくても、ベターなものを探していかないといけないと思います。そういうきっかけにするために、この校区審議会のアドバイスをいただきたいというところがあります。そういうところも踏まえて議論してもらいたいし、私の意見も述べたいし、みなさんの意見も聞いた上で持ち帰って活かしていきたいと思います。苦しい立場ではありますが、ご理解をお願いしたいと思います。

副会長

ひとつ違和感があるのは、改築という形で具体例が出てきていますが、実際に移転できる候補地を事務局が当たっているのかということです。もし建てるのであれば、こういうところに建てられるというのが出てきて、例えば図面が出てきて、この位置がいいとか、この位置だったら建てられるとかいう想定もまだできていない。最初から、分離案は除外されている雰囲気を感じています。

ですから、そういう場で議論してもだめなんじゃないかと思います。実質的に具体例があるかも知れません。それを見ずに議論が進んでいるから、私には違和感があります。

それから、統計上ですけれども、対象の学校のこれからの推移を、増減に関して具体的に調べて予測を出すべきだと思います。現状がこうだからじゃなくて、そういう予測を見ながら深い検討をする必要があると思います。

会長

少し議論をまとめてみたいと思います。事前に正副会長会で話したときは、分離新設の方向が理想ではないかということでしたが、意見交換会で出た地元の意見では、あまりそちらを支持していない雰囲気を感じるのは何故かなと思います。

歴史的な経緯を含めて、2校2校でしたら、すんなりいけそうな気も素人的には、持って

いました。むしろ、「歓迎だ」、「これを機会に分離新設をして欲しい」との意見が地元の過半数を占めるのかなと思っていたのですが、そうでもないというところに、私は予想が外れた違和感を持っています。

今後の作業としては、第3案について、校区割ですとか、予算とか、分離新設のために越えるべきハードルを提示していただく必要があると思います。第1案についても、もう少し予算ですとか、近隣に空いていて活用できるようなエリアがあるのかを調査いただきたいと思います。それと、以前あった湖東中が最大どれ位まで大きくなって、どのような形の特別教室等の経験があるのか、その時のメリット・デメリットについても整理していただきたいと思います。

地域の意見を待って、審議会が結論を出すのではなく、地域とは意見交換を当然しますけれども、答申自体は、事務局から頂いた資料をもとに、「最善の案」を模索していく進め方ではないかと思います。平成27年度にはある程度のものを出さない限り、いずれの案も進みませんので「中間まとめ」が一段落しましたら、この南中問題を大きなテーマにして、半年ぐらいかけて、早い段階で答申をまとめていきたいと思います。ただし、議論するには、データとか資料が足りないと思いますね。みなさんの方から、事務局にこういうものを準備して欲しいというようなご意見があればお聞かせいただきたいと思います。

委員 分科会と言ひ、専門部会と言ひ、検討会になったわけですから。今後の南中に対しての組織については、当審議会として認めていく、つまり継続性のある組織にしていくのか、交通整理してください。

進行係だと思っていたのが、議長になっておりますから。要するに意見を聞いたり交換したりする会ならいいですが、検討会ということで、当審議会の下部組織として認知していくのかどうか。私はそういう認識ではなかったもので、分科会でも専門部会でもないけれど、このあいだ開かれたのは検討会ではなく意見交換会だという立場にあります。

検討会という名称を生かして今後も継続していくのか、私の立場上、交通整理してもらわないと困ります。

委員 せっかく第1回の意見交換会が開かれたわけです。第1回目は現場の先生方とPTAでしたから、今度は、教育委員会が主導権を持って、地区の自治会の関連の人に集まっていたいて、自治会、地区としての考え方はどうなのかを収集し、それをここで披露していただくことも大切なのかなと思います。

委員 前回は、間違いなく意見交換会でした。いみじくも、先ほど言いましたが「地元ってどこに相談したらいいのだろう」というところがありました。引き続き進めていただくのであれば、PTAの代表しかり、先生方の代表もしかりですが、地域の人に入っていただきたいと思います。それは「地域で考えていただきませんか」ではなくて、ある程度こちらが主導してお願いできたらと思います。

というのは、学校は地域コミュニティの核なわけですよ。そういう防災の拠点とか、交流の場とかあるわけですから。「NO」とは言われたいはずなので、地域の方に入っていた上での意見を聞いてみたいと思います。

委員 前回は2人が審議会委員の立場として出ましたが、自治連関係の会合になったら他の委員さんが出られたらいいじゃないですか。分科会の委員としては、2人は少ないと思っていたのですが、意見交換会なら2人でも3人でもいいわけです。

ですから、次の会合にまた同じ委員が出るのですか。交通整理をしてもらわないと私は出ません。出ることはやぶさかではないですけども、決めておいてもらわないと出ないということです。

委員 自治会もという話がありましたが、地元で意見や要望があつたら、まとめられるのですけ

れども、今の問題は自治会には下りていません。中学校の生徒が多いから困る、どうしようということ、自治会の会長は知っておりません。その問題意識を自治会が持たないと、会議に出ても意見の言いようがありません。

その方向性をしっかりして、何を決めてもらうかをはっきりしないといけないと思います。学校を分ける分離新設のようなものなら検討の余地はあるけれど、学校を建てるだけで集まってくださいということなら、何を言ってもいいか分からず、ただ自分だけの意見を言うことになってしまいます。地区から要望が出るような、地区の意見を集約する様な組織のあり方にしてもらわないと、地区から意見を持って出ようがないことになります。そのあたりを工夫してもらおうとよいと思います。

委員 ちょうど時期が年度替わりのいい時期になりますので、教育委員会の方で一括して資料を作っていただいて、事前に配って、こういうことが議題になっていると認識していただいて出ていただくとよいと思います。

委員 長年自治会を束ねていただいた委員さんの意見です。全て地区の実情や組織、中身までご存知ですので、まさにそのとおりです。南中校区の地区の自治連合会長や公民館長さんは、ふだん南中がどうなっているのか、今後どうなるのかが十分には分かっておられないでしょう。

事務局にお願いしたいのですが、これが入口ですから、各地区の自治会長や公民館長に出ていただいた席では、必ず事務局の説明から始まるということです。そこからスタートしないと、いきなり案を出せということにはなりません。今日もそうですよね。この意見交換会のことが出ても、すぐに委員として提案できるかといったらなかなかできないわけです。

委員 単純に言えば、「教室が足りないので、校舎をこういう形にしよう」と言っても自治会長は何も分からんでしょうということです。なぜそれが必要で、なぜ困っているのかを認識しないと、意見の出しようがないので、事前に資料をいただくといいです。そうすると意見も言えるし、また地元の各区長の意見も聞けるしということが出来ます。事前にそういう資料をいただいて参加させていただいた方がいいと思います。

会長 事務局の方はどうですか。そういうプロセスは可能ですか。

事務局 最終的にいったいどうやって決めるのか、誰が主体になって決めるのかというところで、会長さんは、「校区審議会がある程度結論を出して行って、言い方が適当かどうかはわかりませんが、その方向性を、地域を含めた関係者に説明して、これでどうでしょうというやり方の方がいいのでは」というニュアンスのことをおっしゃったと思います。

P T Aや校長先生や地域の方にどんどん説明して、そこでいろいろな意見が出てきて、そうなった時に、じゃあ南中校区全体としてどのようにまとめていくのかというのが、私の中では少し先が見えてきません。

校区審議室は校区審議会の事務局であり、みなさんの意思を受けて動くものですから、ある程度こうするべきではないかというのをもって説明をし、了解をいただく。そこで、賛成反対が出たとしても、これをお願いしたいという形で行くのか。それとも、まだまとまらないということであれば、ずっと説明をしていくのかということについてはいかがでしょうか。確認をしておきたいのですが。

会長 基本的には、校区審議会がある程度の方向性を出す必要があると思いますね。その場合に、例えば分離新設にしても、地区や自治会がどのようなお気持ちや意向なのかを踏まえた上が望ましいと思います。

例えば、こういう3つの案を検討している。それぞれどのようなメリット、デメリットがあるのかという話を聞いた上で、分離新設をあまり地域がご希望でない、またハードルが非

常に高い、時間も掛かるとなれば、増改築というのが大きな柱になるということです。ただ、その場合には、生まれていない子ども達や新しい宅地開発の問題も含めて考えた時には、どうなのかということも出てきますよね。

また、学校指定とか学校選択の弾力化を図って、希望に応じて別の中学校に行ってもいいですよという形にして、マックス900というのを、800台とか700台に抑えていく方法をとるのか。

まだまだ他の選択肢もあり得ますので、そういうふうな議論を進める上でも、自治会や地域のお気持ちや考えを踏まえた方がいいのかなと思います。その上で、最終的には、審議会がやはり方向性を出すべきだと思います。

事務局 西部地域でいやというほど味わったのは、やっぱりいろいろな意見があるということです。「統合賛成」という人もあれば、「ふざけんな」という意見もあるという、これが現実です。だから、今回に限って言えば、ある程度審議会で方向性を出した上で、最終的には責任を取るという形ですね。

会長 今回は、3年後という期限が決まっており、ボトムアップでずるずる時間を延ばす時間的ゆとりはありません。

そういう意味では、審議会はきちんと責任を負う形で判断をします。その上でも、判断材料はまだまだ足りてないし、その過程で意見を聞くべき人もたくさんいるのではないかと思います。

委員 先程の自治会長が出るという話ですが、この問題なら、それぞれどの地区も直接利害関係がないでしょう。増改築でしたら、この周辺だけしか利害関係がないでしょう。何か利害関係が出てきますか。校区が変わるのだったら問題がありますが。

委員 以前の会合で出ていましたのは、例えば、3案の分離新設ですと、確かに地域に投げかけて、いろいろな意見を聞いてということが出てきました。しかし、極論を言うと、増改築に仮にオッケーが出たとしても、地域の理解があるのかという意見がありました。いらないじゃないの、地区も変わらないし、学校運営のことだったら、PTAと学校だけでいいじゃないのという意見がありました。情報提供は必要だが、同意はあるのかなということで、みんなが頭をひねっていました。

それから、会長さんの疑問ですが、これは明らかに情報提供不足です。というのは、なぜ分離新設が認められなかったのかということ、答えは簡単です。今からやっても間に合わないからです。というのが情報として最初に入ってしまったからです。3年後とはいえ、実際には、前回の会議で逆算するといつまでに方向性を決めないといけないかなというのがありました。確か今年の7月か8月でしたよね。それまでに、分離新設で土地を探して、地域の意見も反映させてと言ったら、絶対無理だよ。というところからスタートしたのです。始めから決めつけて臨んだからそういう結果になったということがありました。

委員 参考までに言いますが、桜ヶ丘中学校の増築が続いたときは、地元の協議というのは全然ありませんでした。それこそ、PTAと学校とで全部やられたので、こうなるよという話を聞いただけでした。別に校区とかそういうことが関係ない話だったら、報告だけでもいいじゃないかと思いました。

全体的には意見を聞かれた方がいいかも知れませんが、学校の施設・設備だけなので、PTAと学校と教育委員会で考えていただいたらあとは報告だけでいいじゃないかというそういう意見だと思います。

副会長 今回一番感じるのは、このまま時間切れで決めたという雰囲気を、保護者の方が持たれたら、なんでというのがつくと思います。だから、もっと早い対応ができなかったのかな。全

て時間切れで終わってしまうような気がします。

審議会の常設というのをつくづく言っているのは、一つ一つ片付けていくという姿勢が必要なんじゃないかなと思います。何年もずっと積み重ねの事案が多すぎるので、そういうのも含めて、これを本当に片づけるという事務局の姿勢というのが必要なんじゃないかなと思います。

会 長 率直な雰囲気を知りたいのですが、美保南と倉田で新しい中学校を持つというハードというか、気持ちみたいなものは、地域感情としてはどうですか。

委 員 地域感情は、実は正直言ってよくわかりません。美保南にしても美保も大きすぎて。自治連の会長さんや公民館長さんなどは、すごく一生懸命してくださりますが、今の若い保護者は入ろうとしないです。大きいところは特に。むしろ日進とか倉田のような少し小さいところの方が、地域とのつながりが深いので、いろいろな意見が出ますが、美保や美保南はそういうような意見は分からないというのが一つです。

委 員 南中は、吉成の今の市民体育館のところにあった中学校です。それを廃校にし、倉田中も廃校にして、現在の興南町に建てたわけです。

会 長 美保南、倉田エリアで新しい中学校となった時に、どういうふうなデータが、判断材料が出てきますか。

事務局 生徒数の推計が出ます。

会 長 ここは建設可能でここは難しいという市街化調整区域のエリアも出ますか。

事務局 都市計画の図面を出して、具体的にここがというのも以前に出しました。都市計画サイドと話をしたときに、ここはどうだろう、そこはちょっと難しいねという話をしたという事実はあります。

会 長 机上の議論では、その2校で一つの中学校を作るのが理想的には見えますけれども、進めていったときに、すんなりそれがいいですねとなるのか、違った議論が噴出するのかわかりませんが、その辺はどうですか。わりと「歓迎」という空気で受け入れてもらえそうなのですか。

委 員 今の中学校の方がいいという意見の方が多いと思います。今だったら。「いやだ」とか、「多い」という話も一つも聞きません。

委 員 今だけをいうと、今の南中はすごくいいです。確かに、大なり小なり問題はあります。例えばいじめとか。もちろん、生徒が多いから多い、少ないから少ないというわけではありません。雰囲気もいいし不便なら不便なりに努力もしているし、部活も成績がいいわけです。逆にPTAとして困っているのは、生徒が活躍しすぎてお金が足りない。それだけで、雰囲気は生徒も保護者もいいです。ですから、不満はないです。

会 長 2つのエリアで千代南中を作った時に議論したのは、新しい中学校を作るには、その地域住民が一体になって中学校を盛り上げる、支えるという新たな気持ちがある、その地域に醸成されているかどうかだと思います。

分離新設した場合に、分離したエリアにおいて、「新しい中学校を作っていきますよ」という地域風土というか、そういう気持ちを醸成できるのかどうか。そこまで校区審議会は見



定めたうえで、分離新設しないと、「ただ数字上の問題で、問題があるから分けましたよ」だけでは、これは地域づくり・学校づくりにはならないだろうと思います。地域のお気持ちとか、そういう可能性の有無のようなものを、私としては感触を確かめておきたいと思います。

委員 いいじゃないですか。だけど、繰り返しますが、だれが出るかというのは決めておいてください。全員が出るのか。

会長 今回、お二人だけに出ただいてご苦勞をおかけしました。

委員 それは、申しあげましたように、分科会でもないし、専門部会でもないし、小委員会でもないし、選ばれて者が出た会議は、検討会だったわけです。ところが内実は、意見交換会だったわけです。交通整理しておかないといけません。

会長 今まで千代南に行ったり、神戸に行ったりしたような形で、全員が参加できる日程がとればベストです。少なくとも、必ず会長または副会長に加えて、参加できる委員も出席して、意見を聞くというのがよろしいじゃないでしょうか。

意見交換会は、雰囲気、多くの委員が直接体験した上で判断するというのも重要なことです。地域との意見交換会が設定できるとするならば、当審議会の「移動審議会」というか「現地開催」とかいう形で行ってはどうでしょうか。

委員 この1月26日に行われた検討会は、今後も続けるのですか。このメンバーで。

会長 事務局の判断もあるのですが、「検討会」という位置づけには無理があるようです。会長としては、審議会全体が関われる方向に進められればよいなと思います。

委員 やっぱり南中の4つの地区の地域住民の方、いわゆる自治会の要職の方の意見を聞かなければならないのはもちろんのことだと思います。その人脈をどうやって呼び寄せるのかというと、自治連合会長さんの人脈で、あの人だったら、学校のことを一生懸命に考えてくれるだろうと、そういう方を話し合いの場に加わっていただいて、学校の先生とPTAだけではなく、そういうような形で、説明会とか意見交換会をするのでなければ、これをこのまま続けても、全体の意見を吸収できないと思います。

委員 検討会はもうやめましょう。分科会ではないし、小委員会でもないし、専門部会でもないし、趣旨が違ってきています。

会長 今までやっている、地域で「考える会」を作るあゆみとは違いますので、審議会全体として、意見を聞く場を持つ必要があるのかなと思います。

まずは、次の3月に「中間まとめ」をまとめあげた上で、難しいかもしれませんが、南中の問題を夏ぐらいまでには、いろいろな角度で検討したいと思います。

委員 後で聞いたことですが、今回は審議会の渡部会長名で文書を出して、これだけの人を招集しているということです。事務局にお伺いしますが、私は市民として考えた場合に、地域の方を対象にしてということになると、審議会の会長が招集文書を出して主宰するというのはおかしいのではないかと思います。これはあくまで、教育行政の責任者である教育委員会が主宰をして、それに適合する人を招集するというのが筋道ではないかと思います。「これはおかしいじゃないか。教育委員会は何だ」と、こういう話が出ると思います。

会長 それでは、まず2月末までに、「中間まとめ」についてしっかり詰めて、公表しても恥ず

かしくないようなものをまとめていきたいと思います。

3月については、日程調整を今からすぐに進めてください。

委員 質問です。これは事務局にお尋ねした方がよいのでしょうか。南中の二の舞になってはいけないので、併せて美保小のことは検討しなくていいのでしょうか。美保小からは、間違いなく教室が足りないと聞いているものですから。

委員 美保南小も苦しいのではないのでしょうか。

副会長 それと、今いる人数から求めていますけれども、やはり自然増というのをある程度盛り込んでいかないといけないと思います。

事務局 美保南小についても、美保と併せて報告させていただきます。

会長 今日の資料の7ページに、19学級以上のところは小学校が3校、中学校が3校となっております。以前の議論で、「将来的にも過大規模が解消せずに、協議すべきはどこですか」と聞いたときには、「南中だけ」というデータがあった記憶があります。横ばいなし、沈静化していくという読みが甘ければ、美保南小も当然検討対象にアップされてきますよね。今過大問題を話していますが、桜ヶ丘中や湖東中については話さなくてもいいのかという話になります。そこは、以前に私が確認したところでは、沈静化するという説明でした。

委員 前の資料では、美保と美保南は、平成32年にはやっぱりオーバーフローするということになっています。

委員 倉持アドバイザーさんが、12月も今日も欠席となっています。こういういろいろな意見が出る中で、欠席が続いてはまずいと思います。やはり、地域をよく研究しておられる先生ですから、我々ばかりの意見ではなくて、そういう意味では出席していただきたいです。

事務局 美保小も美保南小も、やはり教室不足が今後予測されますが、校区を再編するとかそういうことではなく、美保においても、配膳室の改修等で対応できると考えているということです。それで教室不足には対応できるということです。

会長 では、「中間まとめ」が一段落したら、過大のところに挙がっている6校についても、もう一度点検して南中問題に絞れるかどうかを踏まえた上で、話を進めていきたいと思います。見落とししている第4、第5の案とか、組み合わせ案があるかも知れませんが、その辺を少し意識の中に置いておいていただきたいと思います。

またたくさん資料などの宿題を出しましたけれども、よろしくお願いします。では、事務局の方に進行をお返しします。

事務局 本日も、長時間にわたり、慎重審議していただきありがとうございました。その中で「中間まとめ」案に関しましては、また委員のみなさんに宿題の方をお願いして、2月末までに訂正をし、調整を図らせていただくという点を、よろしくお願いします。事務局の方も、今日指摘された誤字、脱字、恥ずかしいことなので、しっかり見ていきたいと思っています。

また、併せて南中問題については、意見交換という形で、もう少し各層の考え方というものを聞いてみるということを経験していく必要があるなと感じました。ただその中で、意見交換をするためには、データをもとに比較しながら、それを考えてもらう。その元を作っていないといけないなと改めて思いました。

ご指摘いただきました、例えば分離新設する場合の土地のことであるとか、建てるとするならどれだけの予算が掛かるとか、資料を揃えていきたいと思っております。今後とも審議

に關しまして、みなさんのお力を大切にしていきたいと思っております。どうぞ今後ともよろしくお願ひいたします。以上で、本日の審議を終わらせていただきます。ありがとうございました。

平成 年 月 日

会 長 渡 部 昭 男

議事録署名委員

署名委員 有 本 喜 美 男

署名委員 横 西 経 雄